キャラクター名
孫六　七星（まごろく　ななせ）

プレイヤー名

シンドローム	モルフェウス ウロボロス	ワークス	UGNエージェントB	カヴァー	
オプショナル		年齢	27歳	性別	女
覚醒	憤怒	衝動	憎悪	初期侵食率	38 %
出自	父親不在	経験	永劫の別れ	邂逅	弟子

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	2	0	0			2
感覚	3	1	0			4
精神	2	0	0			2
社会	1	0	3			4

HP	26
行動値	10
(非装備時)	10
戦闘移動	15
全力移動	30

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	1		ＲＣ	1		交渉		
回避			知覚	1		意志			調達	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
『火起 黒火速打』		0	2	0		原初の黄（先陣の炎）。効果：行動値+10
『業物 六一文字兼元』		0	8	0		シールドクリエイト+ダブルクリエイト。効果：ガード値+34
『守リノ型 青葉』		0	10	0		砂の結界+レネゲイドイーター+八重垣, 効果：カバーリング+ガード34+オーヴァードに対してガード値+4d（34or34+4d）
『守リノ型 紅葉』		0	14	0		雲散霧消+レネゲイドイーター+砂の結界+八重垣, 効果：カバーリング+ガード34+オーヴァードに対してガード値+4d（34or34+4d, ダメージ-25）

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	

ロイス

対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
錬金術師	P	N		
葛城　陸奥	P　信頼	N　不安		
天宮　香住	P　慈愛	N　不安		
九頭竜 正宗	P 連帯感	N 疎外感		
北条　昴	P　庇護	N　不安		
阿多邏倶天	P　執着	N　嫌悪		
九頭竜 正宗	P 連帯感	N 疎外感		

最大財産P:　10	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
シールドクリエイト	5	5	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果：ガード値「LV*2」+4+3の盾を作成。ガード値17								
ダブルクリエイト	1	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果：クリエイト系武器と組み合わせ。二つ作る。								
砂の結界	1	2	オート	至近	自身	自動	-	
効果：1M1回、カバーリング。行動済みでも使用可								
レネゲイドイーター	3	4	オート	至近	自身	自動	-	
効果：『オーヴァード』の攻撃に対してガード+[LV]d。ガード+4ｄ								
原初の紫（八重垣）	1	4	オート	至近	自身	自動	-	
効果：ガード値を合計して算出								
原初の黄（先陣の火）	2	2	セットアップ	至近	自身	自動	-	
効果：1シーン1回。そのRに行動値+LV*5。行動値+10								
雲散霧消	5	4	オート	至近	範囲（選択）	自動	-	
効果：1R1回。LV*5の『エフェクト』によるダメージ軽減。-25軽減								
	★							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

《プロフ》
有名な鍛冶職人の女性。とある出来事から刀を作るのを止め
その出来事で出会ったUGNに身を置いており、エージェントとして最近は働いている。
戦闘では、竈と呼んでいるトランクの中で火起こしをし、そこで刀を生成している。
太刀、『業物　六一文字兼元』は、通常作成には時間が掛かる為、ダブルエフェクトで作っている。
剣道の様な静かな構え、規則的で無駄のない精錬された動きで身を守っている。
今でも刀鍛冶での腕は天才とも言われ、彼女が作られたごく少数の刀は高値で取引されている。
師匠と、ある少女に慕われており、彼女には自分の様に道を踏み外さないで欲しいと
心から願っている。その為、少女が自立するまで彼女は少女の師匠として見守ってる。

《性格》
優しく、時には厳しく、そんな女教師の様な女性。
しかし、方向音痴、機械音痴、味音痴などなどダメダメな点ばかりで
彼女を知れば知るほど「顔はいいのに…」「黙って動かなければ美人」と言われる始末。
夜は必ずお部屋で晩酌をしており、悪酔いをすると泣き上戸と笑い上戸が混ざった情緒不安定の
キス魔になり、弟子に抱き着いては何度もキスをしながら勝手に泣いて勝手に疲れて寝ている。

《過去》
母と二人暮らしだった。私はただこの才能で母と静かに暮らしていれば良かった。
けれど、この才能がダメだった。母を殺したのは私だ。
後悔してももう遅すぎた。衝動に負けた私は部屋を見る。
辺りには刀の為だけに母を殺した男たちの死体。